

B—62 手編機による毛糸編物の研究（第2報）
編ゲージのえらび方（純毛中細毛糸に
よる平編の場合）

昭和女子大 岡野 都
○田中利恵子

1. 中細毛糸の該当編目盛は3～6であるが、これは実際には3, 3.5, 4, 4.5, 5, 5.5, 6の7段階に分かれている。これは一つの糸に対し7通りの太さの異なる編針が用意されているのと同じことを意味するので、そのいづれを選ぶべきか初心者が戸迷うことは当然であろう。その疑問を解き、併せて習慣として最もよく用いられている編目盛3.5, 4, 4.5を再検討することを目的とした。今回は編ゲージ、ループの糸長、単位面積当たりの重さ（毛糸使用量）、伸長性、弾性について報告する。

2. (a)供試糸及び試編地編成法は第1報と同様にして各編目盛を70目70段各5枚宛計35枚編成。(b)試編地編成24 hr 経過後編ゲージ・ウェール巾及びコース巾・ループの糸長・重さを測定し、伸長・弾性実験のための基礎線を引く。(c)伸長性（編地引張試験装置）ウェール及びコースの二方向につき荷重を増加しながら伸びを測定し、最大荷量の折の伸長率を求める。(d)弾性、cと同様にして最大荷量の折の編地の長さを l_1 とし、除重して荷重が0になった折の長さを l_2 として弾性率を求める。

3. (a)編目に安定性があり、しかも編地は伸び易く、弾性のあるものがよいとされている。この点から純毛中細毛糸による平編の場合は編目盛4, 4.5が最も望ましい編ゲージのえらび方といえよう。(b)編目盛が小さいほど編ゲージは密に厚くなり編糸は重なり合って単位面積当たりの毛糸使用量は増加し、編目盛3を1とすると6は0.86の割合になる。